学校にいけない・いかない子をもつ

親同士がつながる場

解決できる場ではないけれど、それを目指す一端となることを願って開催しています（事務局）

－令和４年１１月に参加された保護者の声をお届けしますー

「わが子の同級生を見ていたら挨拶運動に立てなくなった。」

大事な本音です。
元気に学校に通う子どもさんたちを見ていると、つい、なんでうちの子は行けないんやろうと思ってしまうのは不思議なことではありません。 比べてはいけないと頭ではわかっていても、その姿をみることでまた考え込んでしまうのでしょう。

「子どもの同級生の親とも話せなくなっている。」

このお話にはその場の参加者も共感していました。
以前、初めて参加された親御さんが「ずっと孤独だった」という言葉を残しています。自分の子どもが、学校にいけない・いかないことを受け入れようとしていても、他の子と違うことで親自身もそれまで通りに親御さんたちとお付き合いしにくい現状があるようです。何を話せばいいのかわからない、学校のことは分からないし、進路選択にも違いが出てくるという現状があるからです。

ただ、社協がこの会を立ち上げたきっかけとして、当事者の親子を見守るママ友からの声があったことは同時に確認しておきたいことです。

「うちの子は学校に行っている。だから私ではわかってあげられない。でも、何か力になりたい。」

学校にいけなくなっている当事者の親子を気にかけている方はきっといます。それぞれがお互いを思いやっているからこそ、安易に声をかけられないのかも知れません。ほんとは一人ではない。ほんとに必要な時に支えてくれる方はいると当事者の皆さんには知っていてもらいたいです。

拡大交流会のお話

９月は拡大交流会として開催しました。日本福祉大学の野尻紀恵先生と、その教え子で不登校経験のある現役のスクールソーシャルワーカーの浅井さんをゲストにお話を聞きました。
当日は、親御さん、行政や民間で子どもの居場所づくりをしている方々、摂南大学のPBLチームも参加してお聞きしました。

「親御さんは子どもに揺らぎを出したほうがいいんじゃないか」

浅井さんから、その日参加している親御さんに今日ここへ来ることを子どもに伝えているか確認されると、答えはおよそ半々に分かれました。当事者であった浅井さんはこんなことを伝えてくれました。

「親が本音を伝えるためには、気持ちを深く言葉にしてくれたほうが安心できる。結論だけを伝えるのではなく、あなたのために〇〇してあげたい、でもそのためには親はぶっちゃけこんな負担がある、こんな心配もある。だからこうしたいという風に、揺らいだ結果だと伝えてくれたほうがいい。」(要旨)

新規参加
申込フォーム

※スマホから読み
とってください。

学校へいけない・いかない子をもつ親同士がつながる場

奇数月の第3日曜日　午後1時30分～3時頃

AGALA2階（箕島本町商店街東入口付近）駐車場有：AGALA東隣

事務局：有田市社会福祉協議会（宮本）TEL 0737-88-2750
mail aridashi.shakyo@gmail.com